

宮崎大学医学部だより

内科学講座

－神経呼吸内分泌代謝学分野－

当教室は神経難病などの特殊な疾患（特定疾患333疾患のうち当科が関係するものは108疾患）も含めた、幅広い領域を担当する診療科で、ワンチームとなって医療に取り組んでいます。内分泌・代謝・糖尿病内科を中里雅光教授、山口秀樹学部准教授、米川忠人学部講師、上野浩晶学部講師、迫田秀之講師、野田智穂助教、神経内科を塩見一剛准教授（副科長）、望月仁志講師、小川剛助教（教育医長）、呼吸器内科を松元信弘助教、飯干宏俊助教（外来医長）、柳重久助教（医局長）、坪内拡伸助教、小田康晴助教（病棟医長）が担当しています。

教室の目標は、「次の時代を担う内科医の育成と社会のニーズに応える医療の展開」と「住み慣れた地域で安心して医療が受けられる態勢の構築」です。前回寄稿以降の7年間で36名が入局しました。そのため、各地域の国・公立病院や民間病院に専門医や若手医師を増員することができ、県内での医療態勢を拡充しています。また、国立がんセンターや虎の門病院などへの若手医師の国内留学も行ってきました。教室開設時からの当科出身のOBの先生方が、宮崎県の医療の最前線や医師会でご活躍されていることも、教室の大きな財産となっています。

当科の平成30年度外来初診者数は1,347名、病床稼働率は99%（年末年始を除く）で、第三次医療機関として脳炎や重症呼吸不全、糖尿病性ケトアシドーシスや甲状腺クリーゼなどの急性期疾患を中心に、多岐にわたる患者さんを常

時受け入れています（平成30年度新患入院患者数916名）。肺癌や糖尿病は毎年、市民公開講座を開催し、一次予防の啓発活動を拡げています。

中里教授は、学会会長として日本神経内分泌学会（2013年）、日本肥満学会（2014年）、日本内分泌学会（2018年）を宮崎市で主催しています。2017年に日本内分泌学会学会賞、2018年に日本肥満学会学会賞と日本神経内分泌学会学会賞を受賞しています。また、当科の中堅・若手医師や研究者コースの学生が日本内科学会、日本呼吸器学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会で受賞しています。

中里教授が研究代表者を務め、全国の大学や国立がんセンターが分担研究施設となっている国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）から採択された3つのプロジェクトが進行中です。AMED-CRESTの「自律神経・ペプチド連関を基軸とするエネルギー代謝と免疫制御機構の解明」、次世代がん医療創生研究事業と革新的がん医療実用化研究事業での「肺癌と膵臓癌の新規早期診断マーカー開発研究の企業化」です。AMED-CRESTでは、2020年1月にシーガイアで6名の海外招聘演者を含む国際シンポジウムを開催します。また、AMEDの二つのがん研究では、肺癌と膵臓癌の新規早期診断マーカーを発見し、国際特許出願と企業への導出を行っています。

大学病院の役割は高度医療の実践、卒前卒後教育、地域貢献、先進医療の創成、世界への研究発信にあります。医師会員の先生方と協力して進めていきたいと考えています。今後ともご指導よろしくお願いたします。

（医局長 柳 重久）



大学病院で勤務している当教室のメンバー